

VI. 広報活動

霊長類研究所では広報委員会が主体となって、公開講座、市民公開、オープンキャンパス（大学院ガイダンス）などを開催し、研究所の活動内容を所外の方に紹介している。また、研究所年報、リーフレット、ホームページなどでも上記の紹介・広報活動を行っている。

1. 公開講座

所外の方に霊長類学を体験していただくため、毎年8月後半に公開講座を開催している。霊長類学に興味を持つさまざまな年齢と職業の受講者に、研究所教員が、それぞれの専門分野について講義や実習を行ってきた。今年度は、犬山公開講座を8月23-24日に実施し、36名が参加した。東京公開講座は9月15日に実施し、195名が参加した。

更に、40周年を記念し、京都公開講座を6月2日に実施し、約200名が参加した。

1-A. 犬山公開講座「サルから学ぶ」

2007年8月23日（木）～24日（金）

会場：名古屋経済大学（耐震改修工事のため、研究所外で実施した。）

<プログラム>

担当・司会：渡邊邦夫

8月23日（木）

挨拶：景山節

講義：渡邊邦夫

「サル社会の社交術：猿」間関係の理解とその発達」

講義：濱田稔

「ニホンザルとその近縁のマカクの進化史」

実習・セミナー：

形態学実習：遠藤秀紀

染色体観察実習：平井啓久

社会生態ディスカッション・セミナー：渡邊邦夫、マイク・ハフマン他

心理学実習：田中正之

脳科学実習：三上章允

8月24日（金）

講義：友永雅己

「チンパンジーのこころの世界をさぐる」

講義：今井啓雄

「ポストゲノムの霊長類学」

実習・セミナー

8月23日に同じ。

1-B. 東京公開講座「サルからわかること：遺伝子から社会まで」

2007年9月15日（土）

会場：日本科学未来館7階みらいCANホール

<プログラム>

担当・司会：鈴木樹理

挨拶：松沢哲郎

講演1：田中洋之「DNAからわかる個体の違い・種の違い」

講演2：中村 伸「サルモデルから学ぶ」

講演3：三上章允「サルの脳とヒトの脳」

講演4：杉浦秀樹「ニホンザルの会話」

質疑応答

I-C. 京都公開講座「霊長類学の新展開」

2007年6月2日（土）

会場：百周年記念ホール

詳細はXII.40周年記念関連行事をご覧ください。

2. 市民公開

今年度は耐震改修工事のため市民公開の開催を見送った。

3. オープンキャンパス（大学院ガイダンス）

大学の学部学生（2,3,4年生）をおもな対象としたオープンキャンパスを、2008年4月3日（木）～4日（金）に開催した。各分野・センターの教員による講義、所内見学、各分科教員との懇談会、さらに大学院生・研究員等も参加した懇親会が行われた。参加者は39名だった。

<プログラム>

担当・司会：中村伸

4月3日（木）

挨拶：松沢哲郎

大学院入試に関するガイダンス：マイク・ハフマン

講義1：友永雅己「チンパンジーにおける社会的認知－視線の問題を中心に－」

講義2：正高信男「人間らしさとは何だろう」

所内見学1

講義3：半谷吾郎「霊長類の個体群動態と社会変動」

講義4：川本芳「ニホンザルの遺伝的多様性と地理的分化」

講義5：平井啓久「染色体／ゲノム分化からみた霊長類の進化」

教員との懇談会1

懇親会

4月4日（金）

講義6：宮地重弘「記憶と脳」

講義7：大石高生「脳の可塑性をサルで調べる」

講義8：宮部貴子「霊長類の健康管理と麻酔の研究」

所内見学2

講義9：濱田稔「形態が語る霊長類進化と人類の起源」

講義10：高井正成「霊長類の起源と進化」

講義11：古市剛史「ヒトと大型類人猿の社会構造の進化：性的競合の激化とその抑制をめぐる」

総合質疑応答

教員との懇談会2

H19 広報委員会：三上章允（委員長）、渡邊邦夫、遠藤秀紀、鈴木樹理、中村伸、細川明宏、松澤美津子（総務掛）

（文責：中村伸）